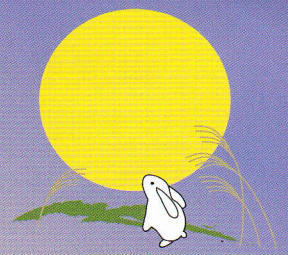
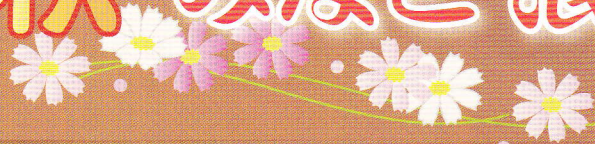


秋 みなと浪曲寄席



浪曲のふるさと築港に
あの頃の思い出がよみがえる

平成24年 9月29日(土)

開場 13:30

開演 14:00 終演 16:00

株式会社間口 本社ビル 4階

全席自由: ¥1,000

※当日券のご用意はありません



嗚呼吉田松陰

真山 隼人

寛永6年、アメリカの使節ペリーが、黒船を率いて浦賀の港に来航。その噂に日本国中が大騒ぎとなる中、長州萩の青年、吉田松陰は師の佐久間象山と黒船を視察し、密航を企てる。翌年にペリーが再航した際には金子重輔と黒船へ赴き、密航を訴えるが拒否された。

その後、自首した松陰は、長州へ檻送され一年間幽囚される。仮出獄の後、松下村塾をひらき、天下国家の事を論じ教え、高杉晋作、伊藤博文などの優れた門下生を生み出した。幕末の志士を多く輩出し、明治維新の精神的指導者として知られる吉田松陰の物語。

佐倉宗吾郎妻子別れ

天中軒 雲月

今から350年余年前、佐倉藩国家老による暴政と極度の重税が行われ、領民達の苦しみは一通りではなく、路上に餓死する者も現れ、遂に百姓一揆が起こる。

割元明主であった木内宗吾郎は、6人の庄屋衆と江戸へ行きお願いをして回るが聞き入れて貰えず、磔(はりつけ)を覚悟で將軍家に直訴を考えた。直訴をすれば妻子にも罪が及ぶ・・・江戸から離縁状を持ち、雪の真夜中、下総の自宅に戻り、涙ながらに妻子に別れを告げた。そして、江戸へ戻り、將軍家に直訴。389ヶ村、5万に余る農民の命を救ったが・・・今も、千葉県佐倉市に「宗吾霊堂」と祀られている事実物語。

河内十人斬り

京山 幸枝若

明治26年に大阪府南東部の金剛山麓の村で実際に起こった事件をもとにしたお話。大阪の片田舎で起こったこの惨事は、女と金と仁義と様々な要因が絡んだ事件として、多くの新聞が取り上げ、話題をさらい、事件の起こった年に、芝居や小説になった他、浪曲や河内音頭の代表的な演目となっている。

赤阪水分村の木戸熊太郎は博打に明け暮れ、親から譲り受けた財産を使い込み、長い間家を空けていた。その間に、女房お縫いが富田林の寅次郎と良い仲になってしまった。夏の盆踊りの時に二人が居る所へ熊太郎が帰って来る。寅次郎の兄貴、富田林の親分である松永熊次郎をも絡まったこの結末は・・・

●お問合せ みなと浪曲寄席事務局 TEL. 06-6572-5656 (株間口内)

当事務局は、日本の心を今に伝える浪曲を、かつて盛んだった港区で再び盛り上げていきたいと願って、「みなと浪曲寄席」の開催・運営をする有志の集まりです。